



# 学校だより

9月号  
横浜市立桜台小学校  
2018年8月27日発行

## 残暑に STEAM (蒸気?)

校長 西尾 琢郎

本当に暑い、熱い夏でした。ところで今、世界の教育界では、「STEAM 教育」という言葉がホットな話題の一つになっています。これはもともと「STEM 教育」という米国で提唱された教育モデルが基礎になっていますが、その STEM とは「Science, Technology, Engineering and Mathematics」の頭文字をとったもので、理数系教育へ注力することを意味していました。その理由は、人文科学など他の分野に比べて「投資効果」が高いとされてきたことです。一方、日本では子どもたちの「理科離れ」が言われるなど、その流れに対応できていないとして、危機を訴える教育関係者も多かったのです。しかし今、既に「STEM」に代わり、「STEAM」という言葉がクローズアップされつつあります。STEM の中に割り込んだ「A」の意味は「Art」、すなわち芸術です。理数系に加えて、芸術という要素を盛り込むことで、技術や工学に、創造性や批判性を加えることがその目的だと言われています。

小学校で「芸術」と言えば、音楽であり図工ですが（実は体育にも表現活動というものがありますし、国語で文章を読み味わう活動なども同様ですね）、STEAM という外来の言葉が登場するはるか以前、日本の中学生に向けて、美術を学ぶ意味について書かれた文章の一部をご紹介します。

「みなさんは、すでにいろいろなことを知っているでしょうし、またこれからも学ぶでしょう。それらの知識は、おおむね科学と呼ばれるものです。科学というのは、だれもがそうだと認められるものです。科学は、理科や数学のように自然科学と呼ばれるものだけではなく、歴史や地理のように社会科学と呼ばれるものもあります。これらの科学をもとに発達した科学技術が、私たちの日常生活の環境を変えていきます。

ただ、私たちの生活は、事実を知るだけでは成り立ちません。好きだとかきらいだとか、美しいとかみにくいか、ものに対して感じる心があります。

これは、だれもが同じに感ずるものではありません。しかし、こういった感ずる心は、人間が生きていくのにとっても大切なものです。だれもが認める知識と同じに、どうしても必要なものです。（中略）芸術は、こうした心が生み出したものだといえましょう。（中略）この芸術というものは、科学技術とちがって、環境を変えることはできないものです。しかし、その環境に対する心を変えることはできるのです。詩や絵に感動した心は、環境にふりまわされるのではなく、自主的に環境に対面できるようになるのです。（中略）人間が生きるためには、知ることが大切です。同じように、感ずることが大事です」（現代美術社刊『少年の美術』より抜粋）

佐藤忠良という彫刻家（『おおきなかぶ』の挿絵でも有名です）が書いたこの文章には、科学と芸術とを共に学ぶ意味が簡潔な表現で書き尽くされています。佐藤には、同様に小学生に向けて書いた文章もありますので、ぜひネット検索などで探り当て、お子さんと一緒に読んでみていただけたらと思います。

夏休みの自由研究で、お子さんが取り組んだのは、科学だったでしょうか。芸術だったでしょうか。それとも STEAM だったでしょうか。未だ厳しい残暑の日々、まるで蒸気のようにホットな、STEAM の息吹に思いを馳せていただけたら幸いです。

※今月の「ぶらり教室訪問」は、お休みさせていただきます。